

令和7年度 県立大洗高等学校自己評価表

目指す学校像	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人の自主性・自立性を伸ばし、豊かな人間性と人格の形成を目指す学校 ・社会人として必要な知識と教養を身に付けた人材を育成し、保護者や地域の期待に応え、地域とともに発展する学校 ・普通科及び普通科音楽コースの生徒が、学習、文化・芸術活動等で相互に協力し合う活力ある学校 		
三つの方針	具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	①自主・自立の精神を持ち、豊かな人間性と望ましい人格を兼ね備えた人財 ②時代や社会のニーズを捉え、社会人として必要な知識と教養を身に付けた人財 ③お互いを思いやり、学習面や文化・芸術面など多方面において協力し合うことのできる人財	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	①高い目標に向けて幅広い知識や技術を修得し、上位学校への進学に対応できる学力を身に付けた生徒の進路実現 (進学系) ②多種多様な資格取得を通して、社会における実践力・適応力を身に付けた生徒の進路実現 (資格系) ③基礎学力の定着を重視し、地域社会のニーズに対応した知識と教養を身に付けた生徒の進路実現 (教養系) ④音楽を通して文化的・芸術的な心身を育成し、関東・全国レベルの大会での経験を人生に活かすことのできる進路実現 (音楽コース)	
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	①基礎学力の定着を図りつつ、校内外の様々な活動に挑戦し、その経験を活かして高い進路目標を実現したい生徒 ②資格取得、生徒会活動、奉仕活動などを積極的にを行い、自分の将来に活かしたい生徒 ③音楽が好きで、入学後に関東・全国レベルの大会で活躍を目指して日々努力し、その経験を将来に活かしたい生徒	
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
本校の構成として、第1学年2学級、第2学年2学級、第3学年3学級となっている。1学級30名に満たないため、生活面においては、生徒一人一人に寄り添った、きめ細やかな指導の充実を図った。また第1学年全体でグループエンカウンターを複数回、LHR等で実施したことにより、学校全体が落ち着いた環境となっており、生徒は日々充実した生活を送っていると思われる。今後も、社会情勢等を考慮しながら、生徒一人一人への支援・指導の充実した生徒指導を計画的に実践し、基本的生活習慣の確立、社会性や規範意識の醸成へと繋げていきたい。 学習面においては、基礎・基本を重視した学力の定着のために、少人数学習や習熟度別学級編成を積極的に導入し実践している。 また2、3年生で学系選択を行っているため、商業や情報科目での検定を意識した授業が展開されている。検定合格者も多数いる。これは自己肯定感が低い生徒にとって、自分を認めて受け入れることにつながっていると思われる。今後も、幅広い教科・科目で、基礎学力の定着を図るための創意工夫をし、進化させていきたい。 進路面においては、全国の保護者向けの進路動画配信を行い、進路に対する準備を家庭	基本的生活習慣の確立と規範意識の高揚及び人間関係づくりを指導、支援する。	①規則正しい生活習慣を確立させるとともに、問題行動等の未然防止、TPOに応じた身だしなみとなるよう指導する。 ②生徒の共感的な人間関係を育成し、他者理解に基づき相手を互いに受容することができるよう支援する。	B
	学習意欲を高め、基礎学力の定着を図るために積極的に授業を改善する。	③基礎的・基本的内容を重視した教科指導の充実を図り、基礎学力の向上・定着に努める。習熟度別授業、少人数制授業、ティーム・ティーチングを積極的に取り入れ、全教科においてICTの活用、言語活動の充実、アクティブ・ラーニングの推進を図り、生徒の思考力・判断力・表現力等を育て、主体的・対話的で深い学びの実現を図る。 ④生徒の実態に応じた指導内容の検討や副教材を精選し、生徒の学習意欲を引き出す。結果として生徒の授業に対する満足度の平均値「3.3」を目標にする。 ⑤一般教養及び基礎学力を定着させる。	A
	生徒一人ひとりの資質・特性にあったキャリア教育を推進する。	⑥進路相談室(学習室)の効果的な利用を促進するとともに、資料コーナーの充実や各種ガイダンスを通して、生徒及び保護者への情報提供に努める。 ⑦早期に進路目標を明確にさせるとともに、進路希望調査や検査等を活用して生徒の特性を把握し、生徒一人ひとりの希望に応じた的確な進路指導の充実を図る。 ⑧個人面談やガイダンスを計画的に実施するとともに、生徒個々の進路目標実現に向けた指導力の向上に努める。	A
	特別活動、放課後サークル活動を通じて生徒の主体性・社会性を育成する。	⑨放課後サークル活動の活性化を通じて、生徒の主体性と多様な興味・関心の発展を支援する。 ⑩生徒会・学校行事・ホームルーム活動の質を高め、生徒が自ら考え、仲間と協働する経験の深化を図る	B

別紙様式 2 (高)

<p>に促した。昨年度は、2年連続で国公立大学合格者が出た。進学・就職ともに、今後も継続的に全校を挙げての横断的なキャリア教育が必要である。さらに、これまでの指導に加えて、部活動を始めとする特別活動や地域との連携による探究活動など様々な活動を充実させていくことが今後の課題である。</p>		<p>地域との連携を深め、開かれた学校づくりを推進する。</p>	<p>①学校に関する様々な情報について、各種メディア（ウェブページ、SNS、町内広報誌、新聞等）を活用して保護者や地域住民に広報し、学校の教育活動への理解を図る。 ②教務部広報聴係が主体となり、学校評議員や地域住民からの意見を聴取し、適切な対応を行い、地域に密着した学校づくりの一層の推進を図る。 ③学校行事への住民参加及び地域行事・活動等への教職員、生徒の参加を推進し、地域との連携体制を構築する。</p>	A
		<p>生徒の積極的な活動に応じつつ、業務負担軽減のため、全職員で指導する体制の構築を図る。</p>	<p>④積極的な生徒に対応するために、授業公開や授業研究、教職員研修を積極的にを行い、質の高い教育の提供を目指す。 ⑤業務負担軽減に向け、全教職員が業務を分担しながら積極的に学校運営に参加できる体制を構築する。 ⑥効率的な指導や業務改善を図り、時間外在校等時間を積極的に減らすよう努める。</p>	A
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教科指導	生徒の実情にあった、基礎・基本を重視した授業を展開する。	<p>目標を明確化した授業計画を教科ごとに策定する。④⑤⑭</p>	A	<p>・引き続き今年度と同様に計画・実施していく。</p>
		<p>観点別学習状況による評価の研究をより進める。③</p>	A	
		<p>基礎・基本を重視した学習内容を策定する。③④⑤⑭</p>	A	
		<p>ICTを活用し、言語活動の充実とアクティブ・ラーニングの推進を図る。③⑭</p>	A	
国語	基礎学力の定着および向上を図る。	<p>授業時の小テストやノートの定期点検を通して、生徒の理解度や学習状況を正確に把握し、個に応じた速度・指導法を行う体制を整える。④</p>	A	<p>・引き続き、少人数制をいかし、生徒の理解度の把握をきめ細やかにやっていく。</p>
		<p>机間指導や声かけを中心としたきめ細やかな指導を行い、生徒一人ひとりの能力に適した指導を目指す。③④</p>	A	
	<p>文学に親しむ態度の育成に努める。④</p>	A	<p>・本に触れる機会を増やし、文学への興味関心をさらに高められるよう指導していく。</p>	
<p>授業内容の充実に努める。④</p>	B			
<p>授業内容の充実に努める。⑭</p>	A			
地理歴史	基礎学力の定着を図る。	<p>基礎基本を平易な言葉や例示で示し、資料活用や体験的活動も交えることで、関心・意欲を高め理解度の向上に努める。③④⑤</p>	A	<p>・言語活動やICTを取り入れ、生徒が興味関心を持って取り組むことができるようにする。</p>
	学力の向上を図る。	<p>「グローバル世界における日本」を意識しながら、学習内容を自らの課題としてとらえ、深め定着させられるようにする。指導にあたってはICT機器の積極的な活用や言語活動の充実に留意する。③④</p>	A	
公民	基礎学力の定着を図る。	<p>基礎基本事項を平易な言葉や例示で示し、資料活用や体験的活動も交えることで、関心・意欲を高め理解度の向上に努める。③④⑤</p>	A	<p>・時事的な題材を取り扱いながら、主権者教育に取り組むことができるようにする。</p>
	学力の向上を図る。	<p>18歳選挙権の実施を想定し、学習を通して、次代の民主社会を担う主権者としての自覚を高める。指導にあたってはICT機器の積極的な活用や言語活動の充実に留意する。③④</p>	A	
数学	基礎学力の向上を図る	<p>学習内容の定着のため、小テストを利用して理解度を把握し、必要に応じて補講を実施する。④</p>	B	<p>・習熟度別の授業において、他クラスの授業担当との教員との情報共有を図りながら授業を進めることができた。 ・学習内容に対する理解が不十分な生徒を対象に、定期考査前に課外の実施を検討する必要がある。</p>
		<p>少人数指導によるきめ細かな指導を行い、その成果と課題を明確にし、次年度への改善策を検討する。③④</p>	A	
		<p>毎時間、前時の復習をすることで授業内容の定着をはかる。④</p>	A	
		<p>アクティブ・ラーニングを通して生徒に考える力や表現する力を身につけさせる。③④</p>	B	
	授業に取り組む姿勢を育成する。	<p>授業のノートを定期的に点検し、学びの基礎・習慣をつける。④⑤</p>	A	
		<p>発問の工夫をし、授業に集中させる。④</p>	A	
<p>机間指導の時間を増やし、生徒一人ひとりとコミュニケーションをとる。③④</p>	A			

別紙様式 2 (高)

	授業内容の向上を図る。	教材研究を充実させ、生徒が興味関心をもてるような授業を展開する。繰り返し学習を行い、知識定着を図る。 ③④⑤	A		・各習熟度の授業において、どのレベルまでの学習課題を提示するべきかの共通理解を図る必要がある。	
		教科会を密に行い、授業内容・方策等について教科内で研究協議する。 ④⑭	B			
		その日の授業の重要箇所を強調し、授業にメリハリをつける。 ③④	A			
	進路に応じた指導を行う。	就職活動に必要な数学の問題も授業で扱う。 ④⑤⑦	A			
		進路に応じた課外を放課後に行う。 ④⑦	B			
理科	基礎・基本の学力の定着	授業での机間指導や課題提出を徹底し、質疑応答を含む言語活動を通じて理解を深めることで、生徒の主体的な学びと真剣な授業態度の定着を図る。 ③④	A	A	・机間指導・課題提出の徹底を継続しつつ、到達度に応じた課題の段階化を図る。 ・ICT活用・地域連携を授業設計に落とし込み、科学に対する関心のさらなる向上を図る。	
		単元ごとに確認プリントを用意し、学習事項の理解度の把握に努める。 ③④	A			
		学力の定着が十分でない生徒に対し、長期休業中に個別の課外指導を行い、基礎的な内容の理解をサポートする。 ④⑤	A			
	科学に対する関心の向上	演示実験や視聴覚教材、ICT機器の活用を通して学習への関心を高め、体験的な学びへと意欲をつなげていく指導を展開する。 ③	A			
		大洗町生涯学習課・日本原子力開発機構大洗研究所など地域との連携に努める。 ⑬	B			
		進路希望に応じた個別指導を実施し、発展的な内容の学習を通じて科学への探究心を養う。 ④	B			
保健体育	基礎体力の向上、健康保持増進を図る。	年間を通し筋力トレーニングやストレッチ運動を取り入れ運動量の確保を図り、基礎体力の向上を目指す。(体力テストAランク+体力テストBランクの割合30%を目標) ④	A	A	・体力向上、生涯スポーツの実現を図る。 ・ICTを活用できるよう環境整備を行う。	
		必要な情報を収集し、健康で安全な生活を実現するために何が必要かを考え、適切に意思決定し、課題解決能力の育成を図る。 ③④	A			
		運動前後の体調管理に気を配り、ケガや風邪などの防止を図る。 ①	A			
	生涯にわたって計画的に運動に親しむ能力の育成に努める。	選択種目を設定し、自らが計画し状況に対応した特別ルールなどを発表する言語活動を充実させる。そして、それに基づいた運動を継続的に行えるようにする。 ③④	A			
		公正、協力、責任などの態度の育成に努める。	用具等の準備・片付け、また競技における審判など、各役割を分担しお互いに協力して安全に取り組めるようにする。勝負に対して公正な態度がとれるようにする。 ②			A
		時間、整列、挨拶、礼儀等についても指導し、基本的な生活習慣を確立させる。 ①	A			
芸術(音楽)	芸術の幅広い活動を通して生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め芸術の豊かな情操を養う。	生徒の興味・関心や個性を生かすことができる題材を精選する。 ④	A	A	・歌唱・器楽・鑑賞・創作といった。様々な単元を通して社会にあふれる音楽の見方・考え方について学びを深めることができた。 ・感受したことを共有し自己の表現に繋げていける言語活動等の充実をはかっていきたい。	
		ティーム・ティーチングを活用し、個に応じたきめ細やかな指導を行う。 ③	B			
		様々な楽器の基礎的奏法を身につけさせ、体験活動をより充実させる。 ④	A			
		より多様なジャンルの音楽に触れさせる。 ④	A			
		鑑賞活動や表現意図を言葉にする活動を通して、言語活動の充実を図る。 ③④	A			
外国語	基礎学力の定着を図る。	生徒が取り組みやすく、学力の向上に結びつくような教材の研究に努める。 ④	A	A	・言語活動や目的に応じてICTの活用法を工夫し、生徒が興味関心を持って取り組むことができるようにする。	
		習熟度別授業・少人数編成授業やALT(週3日勤務)とティーム・ティーチングを実施し、スローラーナーへの支援や学力の高い生徒への対応に努める。 ③④	A			
		習熟度別授業・少人数編成授業やティーム・ティーチングを実施し、生徒一人一人の興味・関心・疑問に答えられるようなきめ細やかな指導を行う。また、指導と評価の一体化を意識した考査の実施を行う。 ③④	A			
	興味関心の幅を広げる。	テキストを読むことで異文化に対する興味関心を高める。またALTとの言語活動を通して生の英語に触れる機会を増やす。 ③	A			
	ICTを活用する。	タブレットや電子黒板を活用して効果的な資料の提示や双方向の活動をすることで、英語や異文化に対する興味関心を高める工夫をする。 ③	A			
家庭	家庭生活に役立つ基礎学力の定着	衣食住を見直し、基本的な生活習慣の確立を図る。 ①③	B	A	・生徒の実態の変化に合わせて、基本的な生活習慣の確立は生徒支援部などと連携して	
		実験実習を取り入れ、実生活に生かせる授業を展開する。 ③④⑤	A			

別紙様式 2 (高)

		学習ノートや課題プリントを通して、言語活動の充実を図る。 ③④	B	学校生活全体で取り組めるようにする。 ・プレゼンテーションや実験結果等の記述を通して言語活動の充実を図る。	
		成人年齢引き下げに伴い、消費者教育の充実を図る。 ③④			
	生徒が積極的に取り組める授業の改善	ICTの活用や体験学習を取り入れ、生徒の学習意欲を引き出す。 ③④	A		
		校内外の研修に積極的に取り組み、生徒の実態にあった授業の展開と指導方法の確立や教材の開発に努める。 ③④	A		
情報	情報社会を生き抜くための態度の醸成を図る。	情報モラルや情報リテラシー、メディアリテラシーを重視した授業を展開し、情報活用能力を醸成する。また、問題解決や探究型の授業を展開し、情報発信能力の向上を図る。 ③④⑭	A	A	・生成AIの活用等新たな課題に対応できる指導を展開していく。 ・各種ソフトウェアの活用に関する指導を充実し、自ら判断し活用できる能力の醸成を図る。
	最先端技術に触れる授業を展開する。	Society5.0社会に通用しうる能力・態度を養うため、IoTやAI(人工知能)、データ活用に関する内容に積極的に取り組む。外部有識者の招聘や研修への積極的な参加等、より専門的な授業を行えるよう努める。 ③④⑭	A		
	社会人として必要となる情報技術を身につける。	ワープロ・表計算・プレゼンテーション・ブラウザなどの各種ソフトウェアやGoogle for Educationなどのツールの活用、コンピュータの仕組みを理解するためのプログラミング教育を充実させ、基本的な端末活用スキルを身につける。また、資格取得の奨励や受験のためのフォローを充実させる。 ③④⑭	B		
商業	各種検定試験に対応できる授業を行う	各種検定試験に対応し、「わかる」「できる」を重視した学習活動を展開する。また、課外授業を充実させ、合格率の上昇を図る。 ③④⑭	B	A	・学んだことを将来どのように活かせるのかを明確にした指導を展開していく。 ・引き続き外部との連携を図り、実務に即した体験的な授業を展開していく。
	基礎・基本の定着を徹底するとともに、生きる力の養成を図る	検定試験の合格にとどまることなく、学んだことをどこで・どのように活かすかの指導を充実し、将来ビジネス社会において活躍しうる人材の育成を図る。 ③④⑭	A		
	ビジネスに対する意識の向上を図る	「ビジネス・コミュニケーション」や「ビジネス基礎」などの科目をとおして、生徒の職業観や勤労観の育成を図る。 ③④⑭	A		
	地元の観光資源を活かした体験活動を充実させる	「マーケティング」や「課題研究」の授業において、地域(大洗町)をテーマとした学習活動を展開し、身近な観光資源を活かした体験活動を充実し、地域の中での大洗高校の在り方を見出す。 ③④⑪⑭	A		
音楽	音楽に関する基礎的な知識及び法則を習得させる。	生徒の実情にあった副教材や課題を精選する。 ③④	A	A	・音楽理論について、1学年では土台作りを2学年ではより発展的な内容に取り組むことが出来た。 ・楽曲の表現・技術だけではなく、歴史的な背景等について触れ、教科の横断的な学びにも今後力をいれていきたい。
		基礎理論を幅広く身につけられるようにする。 ③④⑤	A		
	器楽・演奏研究の演奏に関する知識や技術を習得させ、音楽性豊かな表現の能力を養う。	生徒の興味・関心や個性を生かすことができる題材を精選する。 ③④	A		
		学期に1回の技能テストに、明確な到達目標を設定し、基礎的な演奏力の伸長を図る。 ④⑤	A		
	個人レッスンの充実を図り、より体験活動を充実させる。 ④	B			
教務	基礎・基本を重視した指導方法を研究し、生徒の基礎学力の向上に努める。	学習意欲を引き出す教材及び授業法の研究に教科ごとに取り組み校内研究授業を実施する。少人数編成・習熟度別授業を実施し、生徒のニーズにあった授業を展開する。授業開始・終了時刻の遵守を徹底し、遅刻や欠席のない集中しやすい教室環境を維持する。生徒の学力の伸び率を数値化により表現する方法を研究する。 ①③④⑭	A	A	・きめ細かなサポート体制は確立されているが、基礎学力の向上の方法については、さらに検討を重ねる必要がある。 ・普通科生徒の学力低下が現状である。テスト期間のみならず、学習の遅れがちな生徒への今後の対応が、更なる課題である。 ・学校が安定しているので、
		ICT教育の研究と実践に努める。 ③④⑭	A		
	学習の遅れがちな生徒に対する適切な指導を充実させる。	習熟度別学習、ティーム・ティーチング、少人数制授業を生かして、学習の遅れがちな生徒に対して課題学習や放課後の学習指導を行う。 ③④	B		
	学習の遅れがちな生徒に対して、きめ細かなサポートや長期休業中各教科で課外指導を実施し、学習内容の確実な定着を図る。 ④⑤	B			

別紙様式 2 (高)

	生徒募集を充実させる。	生徒の志願者の増加を目指すために、生徒募集を充実させる。教務部広報広聴担当と連携して、学校の広報活動や資料の充実を図る。入学者の学校生活や進路状況等に関する資料を作成し、積極的に中学校へ伝える。 ⑪⑬	A		引き続き教職員一丸となった体制をキープしたい。
教務部 広報広聴担当	学校の活性化を図る。	本校の教育内容を学校外に公表し、学校生活に前向きな生徒や部活動を熱心に取り組む生徒の情報を把握し、学校全体の活性化に繋げる。 ⑩⑪	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・情報提供を含め、より多くの先生が広報活動を行えばよい。 ・Instagram や Facebook の更なる活用を勧める。 ・中学校訪問については学区（区域）を担当制にした割り振りを行った。さらに頻繁に足を運べるとよい。
	開かれた学校づくりの推進を支援する。	中学校の教職員や地域の方々との交流を図る。また、学校ウェブページを積極的に活用して広報広聴に努める。 ⑪	A		
	保護者及び地域との連携を深めることにより、開かれた学校としての事業を推進する。	本校の現状に即したPTA・後援会・同窓会の活動を推進する。 ⑬	B		
		登校指導（本校昇降口）や校外指導（駅巡視や夏季休業期間の地域巡視）をはじめ、学年ごとの事業を行い、地域社会との連携に努める。 ⑫⑬	A		
生徒支援 生徒指導担当	基本的な生活習慣を確立させる。	生徒面談や登校指導など、日頃の声かけを通じて生徒をよく観察し、教職員間で生徒情報の共有を行い、生徒理解に基づいた生徒指導、支援に努める。 ①②	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年や教員間でばらつきの無いよう、生活上のきまりを明確にして、共通理解のもと生徒への指導、支援を実践する。 ・発達支持的生徒指導及び課題予防的生徒指導を意図的、計画的に実践し、生徒の自己指導能力の伸長を図る。 ・困難課題対応的生徒指導に関して、担任が抱え込むことなく、家庭や関係機関と連携を図りながら、組織的に生徒への指導と支援を継続して行う。
		教職員の共通理解のもと身だしなみ指導を徹底し、改善が必要な場合にはその場できちんと直させたり、止めさせたりする指導を行う。 ①	A		
		生徒の生活環境に係る課題に対してはSSWやSCと連携しながら、規則正しい生活習慣となるよう支援を行う。 ①	B		
	問題行動等の未然防止に努める。	教育活動全体を通して生徒指導の4つの視点（自己存在感の感受、共感的な人間関係の育成、自己決定の場の提供、）を意識し、生徒の自己指導能力の育成を図る。 ①②⑩	B		
		SNSのトラブルやいじめ、命に係わる案件に関しては、必要に応じて警察等、関係機関と連携を図りながら早期に対応を行う。 ①②	A		
		普段から生徒や保護者との信頼関係の構築に努めるとともに、生徒支援だよりを毎月発行し、学校生活上の課題や指導について家庭に理解を求め、協力体制を強固にする。 ⑪⑬	A		
進路指導	生徒自らが主体的に進路を選択し、希望する進路を実現できるよう支援する。	進路希望調査や面談の実施、各種検査等の活用を通じて生徒の進路希望を把握し、その実現に向けた指導体制を整える。 ⑦⑧	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学年・教科との連携を図りながら、生徒が自らの希望・適性に応じた進路を選択・実現できるよう、キャリア教育をさらに推進する。 ・次年度以降も進路実現に必要な学力の定着や迅速正確な情報提供に努め、円滑に進路指導を行う。
		ホームルームや総合的な探究の時間等において、3年間を見通した進路活動を行い、各学年において習得すべき目標を定め、生徒の進路意識を高める。 ⑦⑧	A		
		1学年、2学年で実施するインターンシップ（就業体験）では、早期からきめ細かな面談を実施することで進路意欲を喚起する。 ⑦⑧	A		
	高校3年間を見通したキャリア教育の推進・指導体制を確立する。	各種課外や模試を実施し、基礎学力の定着や大学入試に対応する学力の育成を目指す。特に、進学希望者に対する個別指導を充実させる。 ④⑦⑧	B		
		進路相談室（学習室）の活用を図るとともに、各種ガイダンスを通して的確で最新の情報を提供する。 ⑥⑦	A		
		企業訪問を実施し、地域と連携して就職求人数の安定を図るとともに、企業の求める人材を育成し、早期離職のないよう、学校全体で就職指導を行う。 ⑦⑧	A		
生徒支援 特別活動担当	放課後サークル活動を活性化させる。	放課後サークル活動への加入を促し、継続的で魅力ある活動が行われるようにする。 ⑨	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後サークル活動を計画的に展開し、参加率と活動の質の向上を図る。 ・学校行事の企画・運営にお
	生徒会活動や学校行事、ホームルーム活動の充実を図る。	学校行事の内容や運営方法を見直し、生徒がより意欲的・主体的に関われるようにする。 ⑩	A		

別紙様式 2 (高)

		キャリア・パスポートを活用し、海岸清掃ボランティアや文化祭といった行事等の振り返り行う。⑩	B		ける生徒参画を拡充し、意見反映の仕組みを整備する。 ・行事ごとのキャリア・パスポート活用を定着させ、記録と振り返りの質を高める。
保健厚生	心身の健康づくり	保健室の充実と健康調査を定期的に行い、生徒の心身の健康管理に備える。①	A	A	・養護教諭が中心となり、学校保健委員会を実施し、校内の健康課題について共有した。 ・第3回実施の避難訓練は転校不良で実施できなかったため日程の再検討が必要である。
		「保健だより」を定期的に発行し家庭と連携を図るとともに、基本的な生活習慣の確立を図る。①②	A		
	環境美化意識の高揚	校内清掃の徹底（学期に1度大掃除）とゴミ分別・再資源化推進への意識高揚に努める。②	A		
		地域社会における奉仕作業へ積極的に参加する。②	B		
危機管理態勢の確立	各種学校環境調査・測定に適切に取り組み、情報を速やかに開示する。防災避難訓練の計画・実施（年3回）及び「危機管理マニュアル」の利用徹底を図る。①⑮	B			
第1学年	基本的習慣の確立を図る。人間関係づくりを推進する。	規則正しい生活習慣を確立させ、ルールを守り、適切な高校生活を送る事が出来るように指導する。グループワーク等を実施し生徒の人間関係づくりを推進する。①②	A	A	・進路指導を計画的に行い、学習意欲を向上させる。 ・継続的に個人面談を行い、意欲的な学校生活を送れるよう支援する。
		他学年や生徒指導部と連絡を密に取り、服装頭髪指導を徹底する。①	A		
	基礎学力の定着と向上に努める。	授業の重要性を生徒に理解させ、適切な学習態度を身につけさせる。①③	B		
		授業担当者との連絡をとり、学習環境を整え、生徒の学習意欲を高める指導を心がける。①④	A		
	総合的な探究の時間を年間指導計画に沿って実施する。⑩⑬	B			
第2学年	進路意識を向上させる。	進路指導部と連携して、個人面談や進路ガイダンスを計画的に実施し、進路意識の向上を図る。⑦⑧	A	A	進路意識の徹底を図り、学習意欲を向上させる。 個に応じた指導を行い、生徒が適切な進路を選択できるようにする。
	生活習慣を確立するとともに社会性を身につける。	規則正しい生活習慣の継続を促す。①	B		
		HR活動や総合的な探究の時間を通して、他者と協調する精神の醸成や、社会の一員としてふさわしい態度を身につける。②⑩	A		
基礎的な学力を身につけ、向上させる。	真摯な態度で授業に臨むだけでなく、積極的な学習活動を通して、学習内容の理解の定着を図る。③④	A			
第3学年	基本的な学力の定着と向上を目指す。	授業および課外活動を通して、生徒が主体的に学ぶ姿勢を育み、学習内容の理解と定着を図る。③④	A	A	計画的な個人面談とガイダンスを軸に、求人票管理システムも適切に活用して情報提供を整理・迅速化した。結果として多くの生徒が早期に進路を決定することができた。
	進路実現の支援をする。	進路指導部と連携し、授業・集会・求人票管理システムなどを活用して、生徒に必要な進路情報を適切に伝える。また、個人面談やガイダンスを計画的に実施し、生徒一人ひとりに応じたきめ細かい進路指導を行う。⑥⑦⑧	A		
		社会人として求められるマナーや規範意識を理解し、実践できるよう指導を充実させる。①②	A		
働き方改革	勤務時間を明確にする。	出勤・退勤時、勤怠管理システムへの入力を徹底することで、日々の勤務時間を明確にする。⑯	A	A	・勤怠管理システムを活用し勤務時間を見える化を図っている。業務の棚卸しはまだ十分ではないが、随時検討している。
		出勤・退勤時間を月ごとに確認し、時間外在校等時間を把握する。⑯	A		
	業務の見直しを図る。	各分掌、委員会、学年等において、業務内容を確認し、不要な業務の削減等、業務の軽減を図る。⑮	B		
		必要と判断された業務については、協働による平準化を推進する。⑮	A		

※ 評価規準：A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない